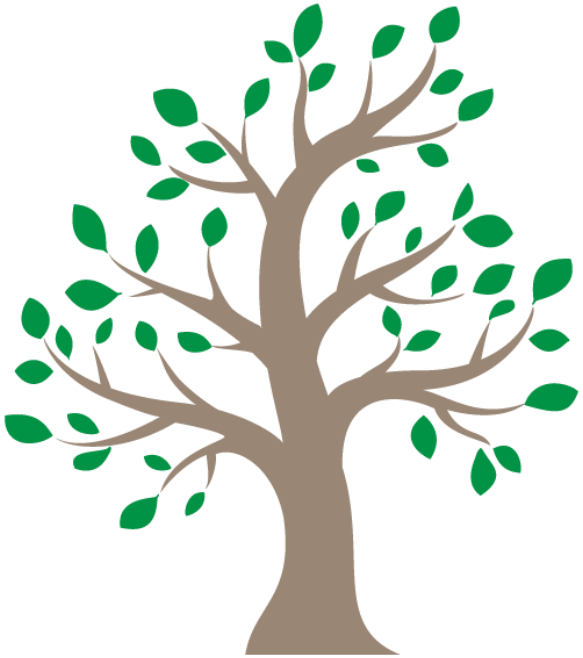
「男女共同参画および研究推進に関する調査」結果



私たちは、男女共同参画の根を育てます

杏林大学 男女共同参画推進室
特任講師　江頭 説子

調査概要

2014年度調査
(2015年2月実施)
課題抽出

取り組み →

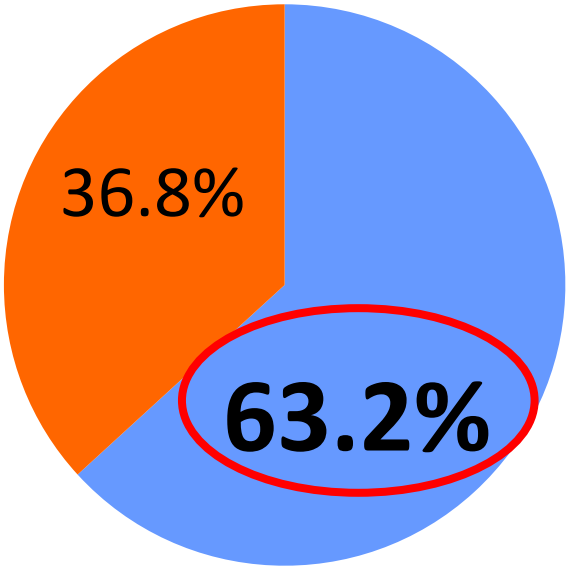
2016年度調査
(2016年７月実施)
効果測定

調査対象：杏林大学 全教員
調査期間：２０１６年7月
調査方法：アンケート用紙配布
およびWEB調査

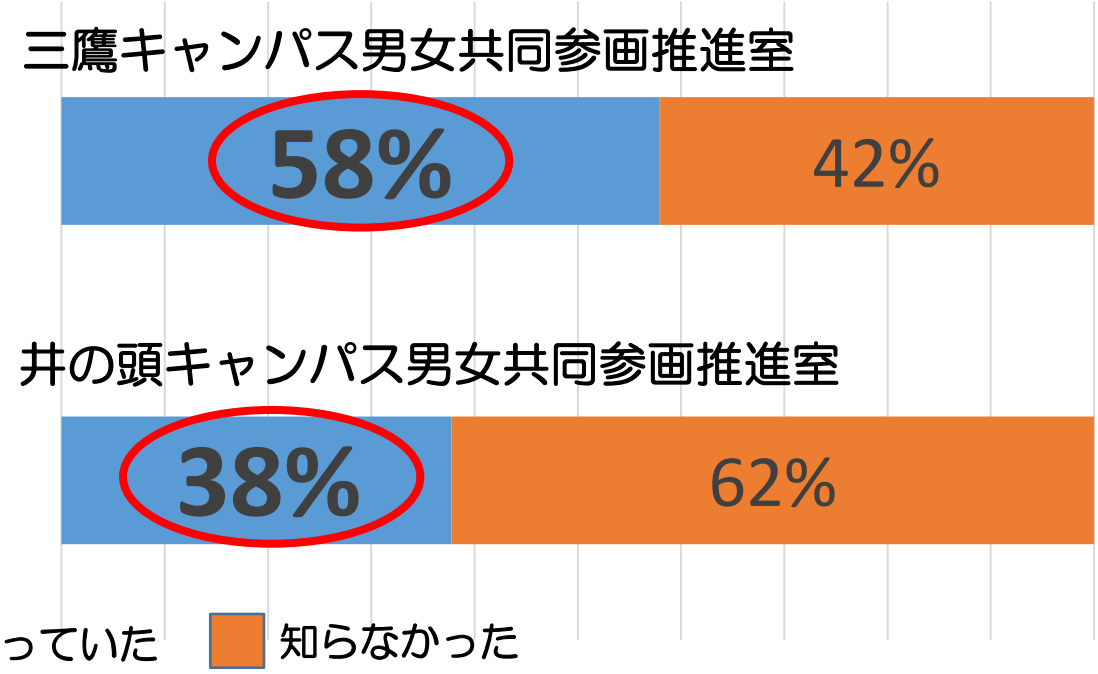
配布数	915
回収数	409
回答率	44.7%

主な調査項目
①男女共同参画への意識
②女性研究者研究活動支援事業の効果
③研究にかける時間や負担　④研究費の入手や用途
⑤環境や制度に対する考え　⑥様々な価値観の特徴

女性研究者研究活動支援事業の認知度



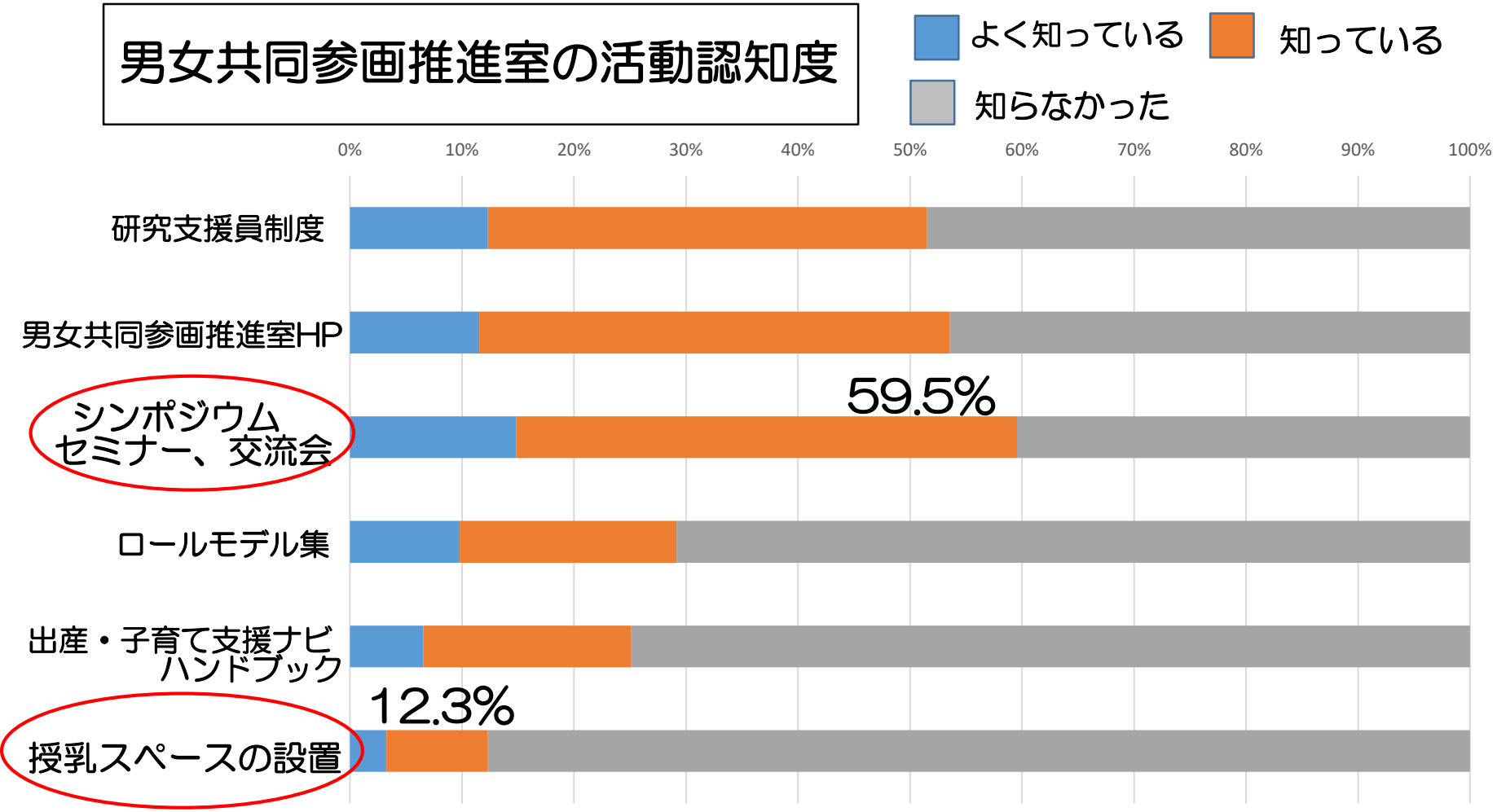
男女共同参画推進室の認知度



□女性研究者研究活動支援事業の認知度は6割

□男女共同参画推進室の認知度は、三鷹キャンパスで6割、井の頭キャンパスで4割

男女共同参画推進室の活動認知度

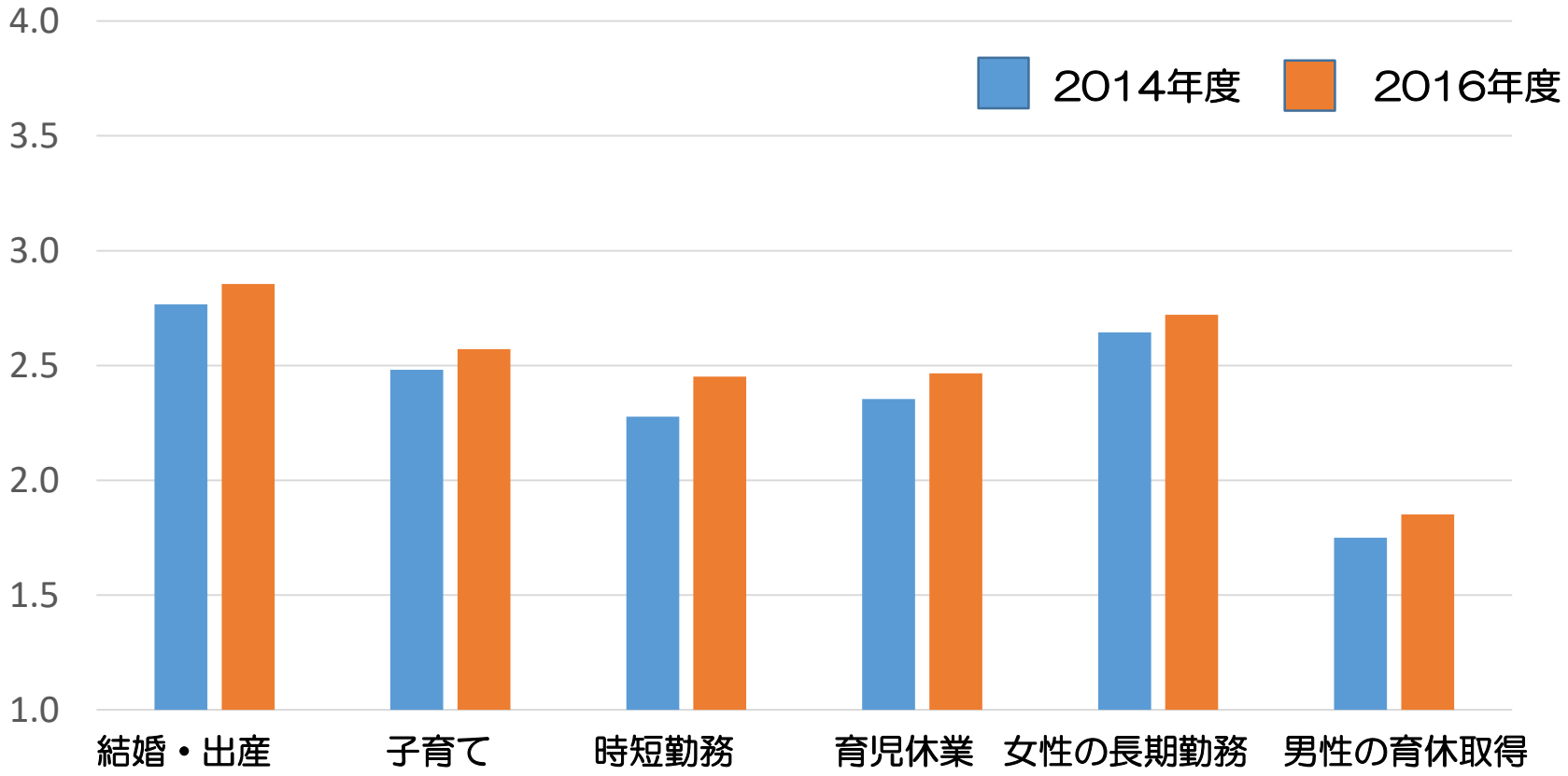


□利用対象者が多い、シンポジウム、セミナー、交流会の認知度は最も高く、6割程度

□利用対象者が限られる、授乳スペースの設置の認知度は1割強にとどまる

杏林大学の両立支援に対する認識

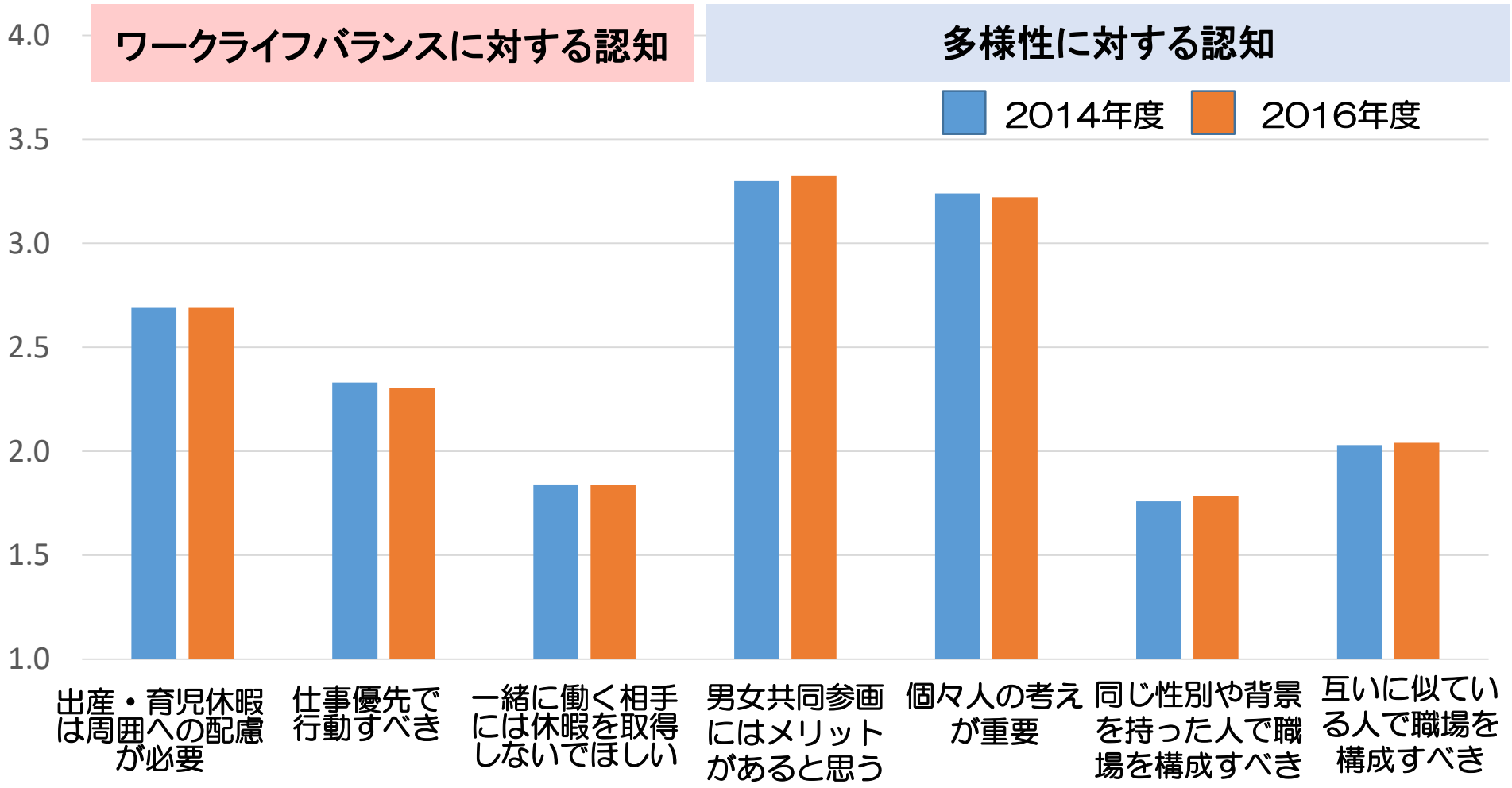
自分の職場に1.あてはまらない
2.あまりあてはまらない
3.ややあてはまる
4.あてはまる　で回答



□支援策に対する認識は、すべての項目で増加傾向
□今後も継続的に支援策を啓蒙・実行していく必要性がある

男女共同参画の意識

1.あてはまらない
2.あまりあてはまらない
3.ややあてはまる
4.あてはまる　　で回答



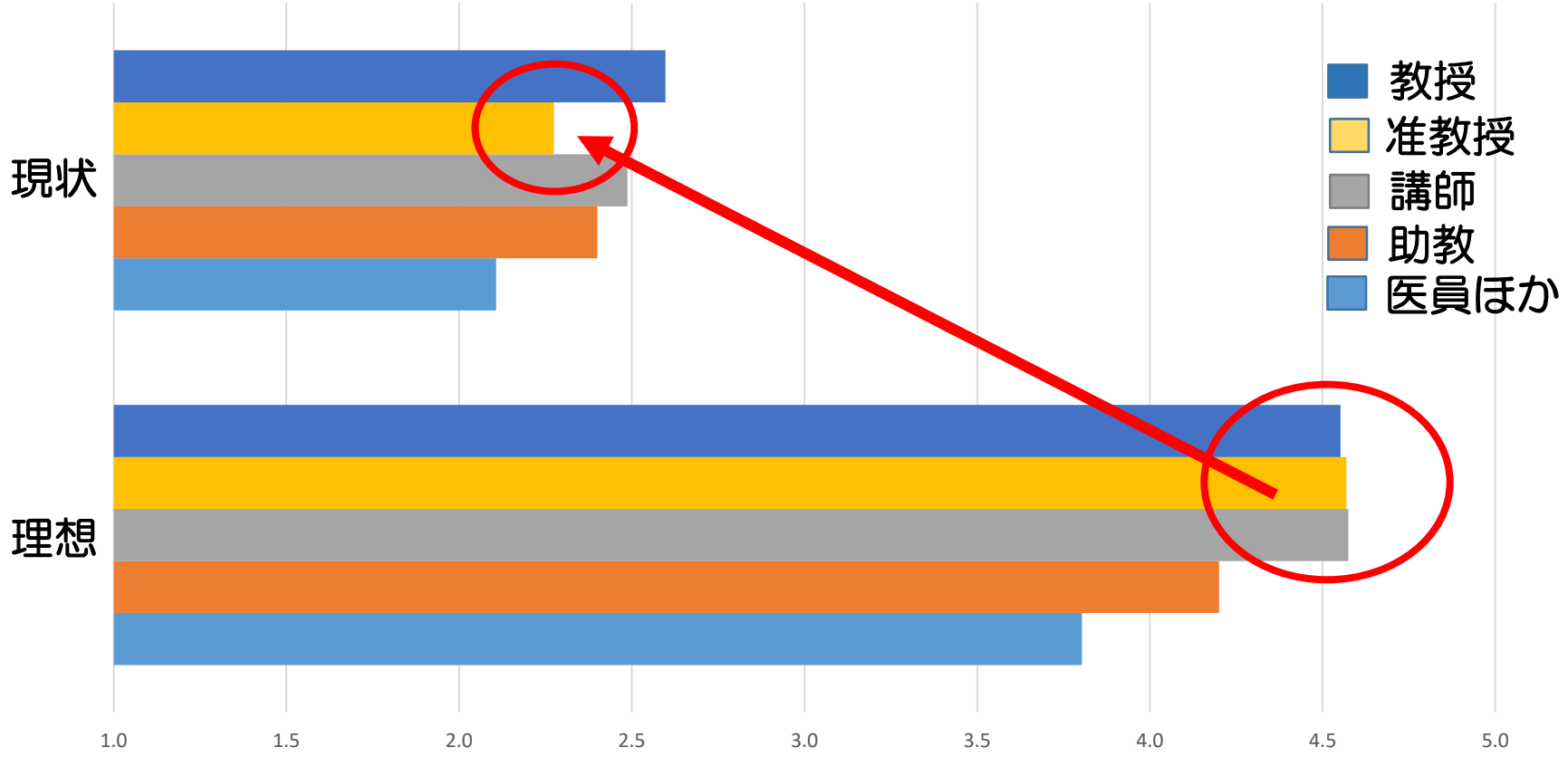
□2014年度調査、2016年度調査ともにほぼ同様の結果

研究に対する意欲

※2016年度調査の結果

現状：１.全く取り組めていない　～　５十分に取り組めている
理想：１全く取り組みたいと思わない～５積極的に取り組みたい

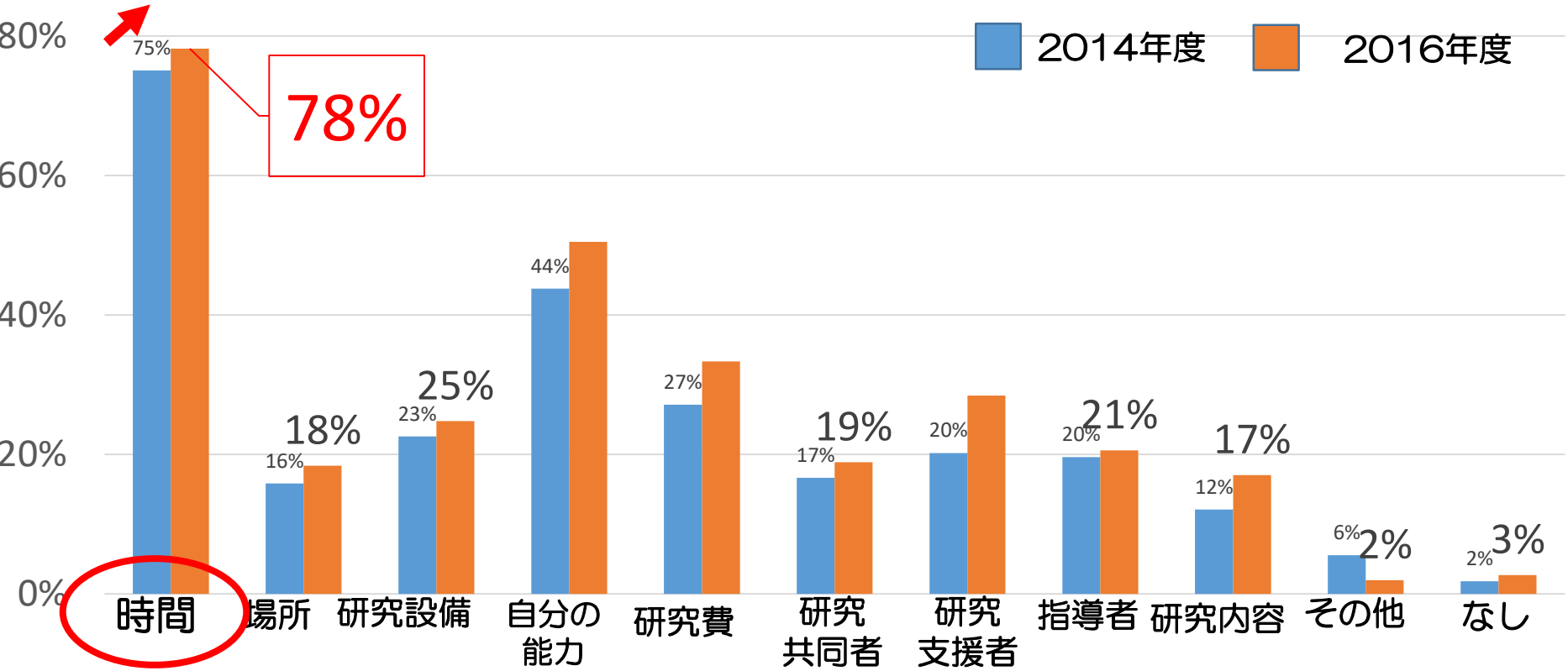
「現在、研究にどの程度取り組めていますか。また、理想的にはどうしたいですか。」



□講師以上で研究意欲（理想）が高い
□准教授の研究意欲（理想）と現状の差が大きい

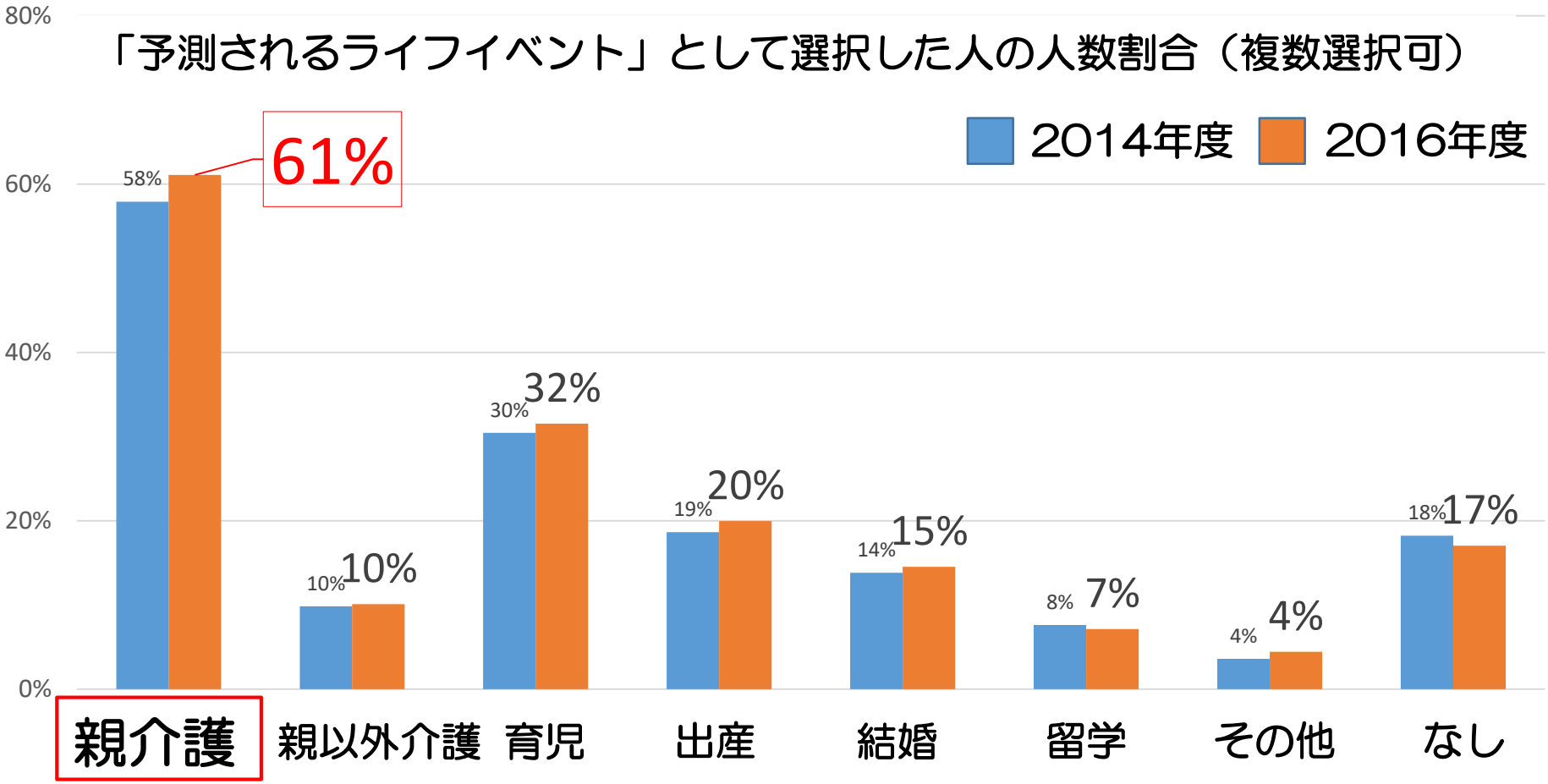
研究をするにあたり不足しているもの

「不足しているもの」として選択した人の人数割合（複数選択可）



□男女ともに約8割が時間が不足していると感じている
□研究時間の確保が根本的かつ継続的な課題

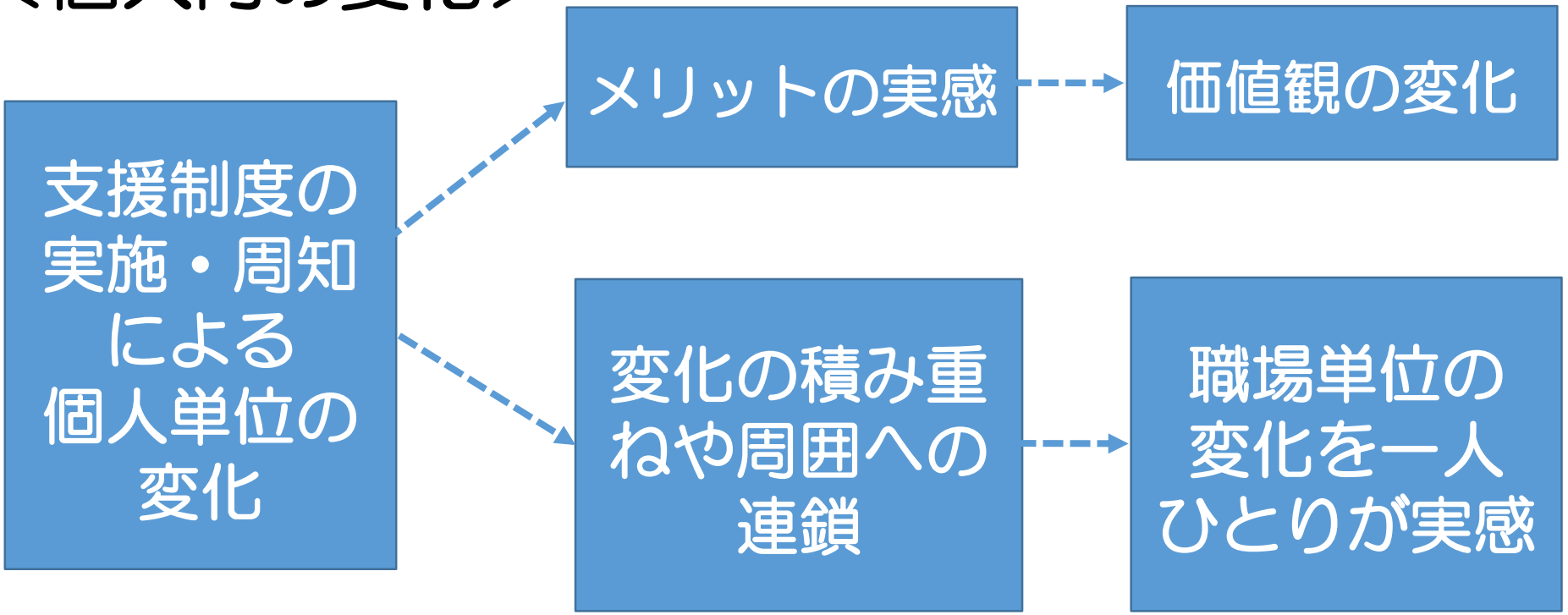
予測されるライフイベント「親の介護」



□親の介護、育児・出産が多く、中でも親の介護と答えた割合は全体の6割

杏林大学の女性研究者研究活動支援事業の成果と継続に向けて

変化の維持
＜個人内の変化＞

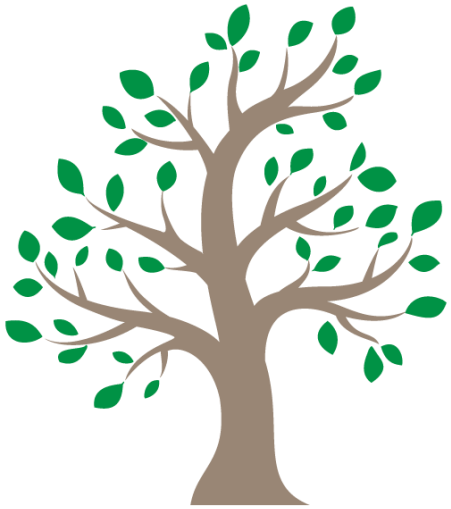


変化の拡大
＜職場単位の変化＞

杏林大学の女性研究者研究活動支援事業の成果と継続に向けて

	変化を起こす	変化の維持・拡大
男女共同参画	男女共同参画が良い悪いではなく、「何のために推進すべきなのか」について、内容に踏み込み、認識を共有する	支援制度や取り組みの対象者/利用者以外を含めた全体への周知 ↓ 職場の多様性の意義を考える機会を設ける
研究推進	研究を推進する方向の支援に加えて、阻害要因を緩和する方向の支援	負担に感じる業務の見直し・効率化の促進 ↓ 働き方改革、ワークライフバランスの実現へ

男女共同参画推進室で実施した調査

- 「介護に関する実態調査」
  →介護支援ナビ、介護支援ハンドブックの制作に活用

- 杏林大学「医学部卒業生(女性)の現状に関する調査」
  →女性医師の研究継続、復職支援の検討、医学部1年生、３年生を対象とした、キャリア・ワークライフバランス授業への活用